

全国万引犯罪防止機構、24年度通常総会を開催6/11

「万引は青少年の犯罪から成人の犯罪へ変化」山村委員長

特定非営利活動法人全国万引犯罪防止機構(事務局・東京、河上和雄理事長)は6月11日、都内千代田区のアルカディア市ヶ谷で平成24年度通常総会を開催した。正会員・賛助会員らが参席し、議案決議・各種報告を行った。今回は河上理事長の代理として山村秀彦総務委員長が代表挨拶・総会議長を取り仕切る形で進められた。

第1部の総会では、23年度事業報告・事業会計収支計算書と、24年度の事業計画書・会計収支予算書、役員交代などについて慎重に審議を重ね、満場一致で議決に至った。



冒頭あいさつした山村委員長は23年度の万引犯罪件数が14万1562件と、22年の14万8371件から減少したことを報告(警察庁統計)。20年以降の増加傾向に歯止めがかかった一方で、検挙者構成で65歳以上の高齢者が全体の25.8%に上り、年々増加傾向にあることから「万引は青少年の犯罪から成人の犯罪へ変化したと言わざるを得ない。憂慮すべき状況だ」と警鐘。機構としても、万引犯罪撲滅のためさらに努力していく決意を示した。

☆万引犯罪撲滅へ、調査結果と全国の取り組みを紹介

中高生「万引きしやすい店」1位はスーパー、コンビニは2位

同機構は通常総会に続く第2部において、万引きに関する全国調査の報告と、各地の万引き防止の取り組み発表を行った。

23年度の「全国小売業万引被害実態調査」について報告した調査

研究委員会の加藤和裕委員長は、確保した万引犯の構成比や通報処理の状況などについて解説。佐藤聖理事は、マイバックを悪用した万引の増加や万引品の処分市場に対する対策の必要性、窃盗犯の「店内確保」推進に向けた取り組みの経過報告を行った。

北海道大学の瀧川哲夫名誉教授は、23年度の「万引に関する全国青少年意識調査」について報告。これによると、「万引しやすい店を知っている」と答えた中高生のうち、具体的な種別として回答されたものは割合が多い順に1位〓スーパー、2位〓コンビニ、3位雑貨・玩具店――、などとなった旨説明した。

続いて、全国各地における万引き防止策が報告され、まず京都府で活躍している学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」が活動内容を紹介。さらに埼玉県警本部少年課の森山稔課長補佐と香川県警本部生活安全企画課の堀江良英課長補佐がそれぞれ、地元における取り組みを報告した。

★意見交換会で交流活発、機構の一層の活躍に期待集まる

「万引き対策は治安対策の根幹だ」樋口警視総監

第3部の情報交換会にも正・賛助会員らが多数出席、関係者も駆けつけて盛況だった。

あいさつした警視庁の樋口建史警視総監は、「万引き対策は治安対策の根幹だ。これなくして安全・安心社会の実現はない」と強調、同機構の一層の活躍に期待した。経済産業省の豊永厚志商務流通審議官は、コンビニが取り組んでいるセーフティেশション活動等について紹介したうえで、「こういった業界こそ、万引の被害に遭いやすい」と指摘、機構らの活動により被害が軽減・撲滅されることを願った。